

国語

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
国語	古典探究	2	3年次・I 2群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
標準 古典探究（第一学習社）		ビジュアルカラー 国語便覧		3年次選択履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
現代に残る名作に触れて日本文化や中国文化についての理解を深め、古典に親しむ。古典に親しむことにより、過去の人間の生き方から学び、自分の生き方についての考えを深める。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	1	古文 説話 『御伽草子』 「浦島太郎」	4	・比較的小説説話を読んで、古文に親し みを持ち、話のおもしろさを理解す る。	1 2 3 2 3
		5			・正確に音読する。	1 2
	2 学 期	2	漢文 逸話 「不顧後患」 「不若人有其宝」 「宋人有嫁子者」	6	・句形の読みと意味とについて理解し、 それに即して口語訳をする。	1 3 1 2
		7			・故事や逸話にこめられた古代中国人の ものの見方・考え方を味わう。	1 2
学 習 の 年 間 計 画	2 学 期	3	物語 『源氏物語』 「光る君誕生」 「若紫」	9	・『史記』の文学性と作者司馬遷につい ての概要を知る。	1 2 2 3
		10			・歴史の中の人間について考える。	
	3 学 期	4	漢文 項羽と劉邦 「鴻門之会」 「四面楚歌」	11	・和歌の世界の技術と感覚の変遷に触 れ、興味を深める。	1 2 1 3 1 2
		12				
	3 学 期	5	日記 『更級日記』 「門出」 「源氏の五十余巻」	1	・各段に通底する作者のものの見方や考 え方の特色を把握する。	1 2 2 3 1 3
				2	・各段に取り上げられた問題が、時代を 超えて現代においても日常で遭遇す る課題であることを理解する。	
				3		

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○定期考査等では、古文や漢文を読むための基礎的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを取りながら評価する。 ○課題や提出物の状況を評価に取り入れる。 ○実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることを期し、技能もはかる多様な評価を目指す。	○定期考査等では、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身に付いているかをはかることに注力する。 ○論述やレポート等、多彩な表現活動を評価に取り入れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているかをはかる。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・定期考査 ・小テスト ・提出物	・定期考査 ・授業中の活動 ・小テスト	・授業中の活動 ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と学期末の評価を行い評価する。	
	学習上の留意点	・小テストの勉強や課題プリントなど、家庭学習をしっかりと授業に臨むこと。 ・ノートや問題集など、提出物は期限を必ず守ること。		